

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600172		
法人名	株式会社 アミタ		
事業所名	グループホーム カノンしもがも		
所在地	京都府京都市左京区下鴨松ノ木町64-50		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2690600172-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和4年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・常に利用者を中心に考えること、今までの生活習慣を大切にすること、その人の持つ残存能力を維持出来るようなかかわりを目指しています。
- ・笑いのある家庭的な雰囲気作り、季節感をもたせた環境作りに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームカノンしもがも(1ユニット)は株式会社アミタの傘下として、2016年3月に開設されました。1階に看護小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、隣接して、訪問看護ステーション(24時間対応)もあり、グループホームも訪問看護を受けています。コロナ禍では、室内運動を午前、午後を実施して、踏み台昇降や健康体操をおこない、食事レクリエーションを楽しんでいます。当事業所は今季、職員の大幅な交代や、管理者(令和3年6月着任)の交代もおこなわれ、新たな体制になりました。職員は「利用者一人ひとりに楽しみ、喜びは違う。その人に合った場面をつくり、利用者のあるがままを受け入れ寄り添う、その係りを丁寧に作っていく」を、目指しています。特にこの1年、認知症ケアや身体拘束・虐待防止研修に取り組み、日常のケアに生かしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入口、スタッフルームに掲示 入職時オリエンテーションでの説明 必要に応じて管理者から適時説明を行っている スタッフの入れ替わりの中、一人一人の意識の中にどこまで浸透しているか、しっかりと浸透させていくのが課題	法人理念「慈悲の心」と行動指針(5つの柱)を基に、事業所目標を「たくさんのいいねがある日常をサポートする」と掲げて、日々の介護に取り組んでいる。スタッフルームに掲示し、職員会議で話し合うとともに、個別面談の機会にも振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地蔵盆など地域資源の活用。 コロナ禍で、思うようなつながりが出来ていない。 このコロナ禍で、地域とどう繋がっていくかが課題	昨年の地蔵盆は、子どもたちのみでおこなわれた。地域での祭りやイベントは、まだ再開されていない。事業所では、4月からお誕生日に家族の招待を再開している。交流のあった幼稚園からは、お花のプレゼントが届いている。散歩中に一緒に遊ぶことはまだできないが、マラソンをしている姿を応援している。地域の「ふれあい教室」再開時には、職員は講師で参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は、運営推進会議において認知症の理解を深めたり、アドバイスする事もあった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止の為、書面開催が続いているが、事前に文書での報告をして地域包括、自治会長の方の意見を聞き、議事録を作成配布している	運営推進会議メンバーは、家族代表、下鴨学区社会福祉協議会会長、民生児童委員、老人福祉員、グループホーム連携医、地域包括支援センター職員である。コロナ禍では書面会議である。利用者の状況や事故、ヒヤリ・ハット、行事報告、感染対策など報告されている。不審者の侵入がおり、特に被害はなかったが、地域包括支援センター職員より、注意喚起があった。また、民生児童委員より「地域の一人暮らしの高齢者の様子がおかしい」との報告があり、地域包括支援センター職員と管理者が訪問して対処されている。議事録は家族に配布している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、連絡を取り報告・相談をしている	運営推進会議議事録や事故報告書は、手渡しで届け説明や相談、確認などおこなっており、区役所の職員からも声がかかり話しやすい。地域密着型協議会に参加して、事例検討会や地域ケアマネジャー会議などで、他事業所との情報交換を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及びすべての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一部危険防止の為、ドアの施錠は行っている。 3か月に1回の身体拘束に内部研修を実施し、身体拘束体制の構築中。センサーマット使用者3名。同意書、定期的な必要性、妥当性の見直しを行っている。	3か月ごとに身体拘束と虐待についての研修をおこなっている。事例は研修委員が準備して、話し合いで検討している。利用者が立ち上がったときは、まず「なんで立たれたのか」に職員の意識が向くようにしている。転倒時などには、原因を探り対策を立てており、すぐにセンサーに頼るのは避けている。この研修は委員会も兼ねるとしているが、議事録が作成されていない。地域密着型協議会で関連の研修が開催される時には、職員も参加している。現在、赤外線センサー1名、センサーマット1名が使用している。	身体拘束禁止と虐待防止に向けて、研修で意識の向上を目指し、話し合いもおこなっている。委員会としても必要な部分は議事録として記載して、積み重ねられることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度のペースで行い知識向上、虐待防止に努めている。虐待防止対策の構築中。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い理解を深めている。今年度は外部への研修の機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により書面にて説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり定期的に家族へアンケートをとり、意見を反映させている。重要事項説明書に相談窓口記載説明を行っている。	コロナ禍で家族会は開催できていない。顧客満足度調査(アンケート)は、年1回おこなっている。アンケート内容や、運営推進会議時などから、家族の諸要望(居室の清掃に関して、転倒予防、外出への希望、職員の異動に関して)は検討しサービス改善に生かしている。現在、清掃はチェックリストで確認している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議の機会を設け意見を募っている。 個人面談(最低2/年)	毎月PCS会議(職員会議)を開催して、職員意見は聞き取っている。掃除機やキャビネット更新依頼、介護用スライディングシートの購入について、フロアの配置替えについて、配膳の準備について、清掃の分配についてなど、順次対応している。管理者との個人面談が年2回あり、年間目標を提出し振り返りもおこなっており、諸意向を述べている。(PCSとは、パーフェクト ケア スタッフの略である)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に役割を与え、目標をもって業務にあたらせている。キャリアアップ制度などを用いて職員がスキルアップしやすい環境を作っている。役職者サイドと職員との意識のギャップが生じていないか、面談等で埋めていく必要性がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ同行指導等を行い、手技の向上に努めている。外部研修を受ける機会がある。内部研修では、各スタッフが講師となり互いに学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍で交流の機会が無かった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントで情報収集したことをスタッフに伝達してかつ適切に対応出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議やその他でも必要に応じ聞き取りをして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を収集し、要望を聞き必要であれば他のサービスの案内をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の負担にならない範囲で協力しながら食器ふきなどをしていただき、残存能力を活かした支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でも面会できるようにしている。対面での情報共有に努め、協力関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で面会制限などがあり、外部の人との接触が難しく他の方法で考慮している。それまでは、知人の方などの面会や地域の行事の参加を通して支援していた。	利用者は左京区や北区の方たちがほとんどである。地域の行事や防災訓練、下鴨神社の祭典行事の自粛も続いている。自宅への外泊も今は自粛である。そのなかでも、家族と一緒に行きつけの美容院に通う方や、理美容の方が来所して下さる方もいる。趣味の継続は支援しているが、編み物ができなくなった方がおられる。習字の得意な方は、好きな歌詞の書き写しをおこない、お花の好きな方たちは、花の苗を買ってきてプランターに植え、日々水やりをおこないながら、咲いた花を愛でている。職員は3～4か月ごとに利用者の日常の様子を書き、写真も載せた「カノン新聞」を家族に届けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や相性を理解し利用者同士の関係づくりが出来るよう考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は逝去以外、退去者なし。以前は退去後のサービスの調整や退去後の様子確認を行っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向に添えるよう希望を聞くよう努めているが、意思表示が難しい入居者もあり、可能な範囲でサービスを提供している。	利用者の意向は日々聞き取り、介護ソフト「ワイズマン」の介護支援経過に打ち込んで、職員間で共有している。利用者からは「美味しいものが食べたい」「ビールが飲みたい」など食事に関することは多く、食事レクリエーションで提供している。基本酒類の禁止はないが、調整はしている。散歩の希望はあり、適宜対応している。言葉が出にくい方は、態度で意思表示している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族・本人への聞き取りから情報把握に努めている。アセスメント方法が今後の課題。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録と情報共有をしADLの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントチェック表を活用し月1回のケア会議、モニタリングからの意見・アイデアを検討し、介護計画を見直している。	毎月ケア会議を開催して、一人ひとりの介護について検討している。安全に配慮した具体的な検討がおこなわれている。モニタリングは「モニタリング一覧表」を用い、3か月ごとに担当介護士がおこなっている。サービス担当者会議は1年ごとと必要に合わせおこない、家族、利用者の参加がある。サービス提供内容は、毎日チェックしている。介護課題を挙げ、丁寧に介護の展開ができていますが、課題が大きすぎ、1つの課題に数個の目標が立案された計画もある。	介護課題を挙げる場合、「介護士で解決できるか」も、1つの視点である。介護ケアの責任の範囲に焦点を絞り、課題を挙げて介護計画を作成されると、より介護力を発揮したサービス提供内容につながると期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	所定の記録様式を使い、記録と口頭での情報共有を行い、月1回のケア会議で見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応出来るよう、まずニーズを聞き、対応策を検討するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を現行のスタッフが把握出来ていない。地域資源は何かあるのか学んでいく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認しかかりつけ医と連絡・相談し関係を築けるよう努めている。	現在、4名の利用者は、入居前からのかかりつけ医への受診を、家族とともにこなっている。他の方は、協力医療機関の訪問診療を受けており、必要時は往診も受けられる。受診結果は、面会時や電話で家族に伝えている。毎週1回の訪問看護もある。毎月歯科の健康診断を実施し、歯科衛生士の口腔ケアも受け、職員への研修もある。皮膚科の往診も希望者にはある。併設の訪問看護ステーションとは、24時間オンコール体制を組み、緊急時にも対応がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携により何かあればすぐに相談できるようになっている。定期的な訪問にきてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、定期的な又必要に応じて情報交換を行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人または家族の意志や意向を聞きながら看取りプランを作成し、実行できるよう指針を作成している。今年度1名看取ったが急激に状態が変化し十分なプランを作りかかわれなかった。	契約時に「看取りに関する指針」に沿い、利用者（家族）に説明し「看取り介護同意書」をもらっている。看取り介護について、会社では「ふたば」と言い、「ふたば」についてのフローチャートを作成している。看取りプランは、利用者、家族から意向を聞き、医師と連携して作成をしている。緊急時には看護師または管理者が医師との連絡をおこなっている。令和3年度は、1名の看取りをしている。研修も年1回実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による内部研修や救命救急講習の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練。シェイクアウトへの参加など少しずつだが防災意識をたかめ対応方法を考えている。が、十分とは言えない。	併設の看護小規模多機能型事業所と連携して、避難訓練を年2回（昼夜想定）利用者も参加して実施している。年1回消防署の立ち合いもあり、避難誘導、消火器の使い方などの指導を受けている。地区防災訓練に利用者と参加した際、避難場所である小学校の2階には、車椅子の高齢者が上がるのが難しいことがわかり1階になるなど、地域とも連携している。毎月24日を防災の日として、避難訓練、防災、防犯など講習している。備蓄は水、食料、オムツ、簡易トイレ、カセットコンロ、電池などの生活用品も3日分は準備している。AEDも設置し、看護師が指導をしている。BCP（事業継続計画）は作成中である。	

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を忘れないよう注意し、職員同士でも注意し合える環境になるよう改革中。	接遇(言葉使い、マナーなど)やプライバシー保護については、社内研修としてWEB研修で実施している。録画した動画で全員が研修し、研修報告書を提出している。利用者の呼称は「〇〇さん」と苗字で呼び、居室への入室時はノックして声をかけ、トイレや入浴時は戸は閉めそっと見守るなど対応している。職員の言動が気になる場合は、管理者に報告があり、管理者から言動に対して注意している。今後は職員同士で注意しあえる環境を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者主体で生活が送れるよう考慮している。例)誘導するような言葉かけをしない、ダメや待って言わない・・・など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ要望に添えるよう努めている。居室は個性がでている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服などを選択できる利用者には自身で選択していただき、その他の方には職員と一緒に選べるよう取り組んでいる。が、認知症の進行の為に興味や薄れている人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態にし、盛付け等手伝っていただき食事を楽しめるよう工夫している。	会社の関連事業所の厨房から、昼食と夕食は届く。朝食は、職員が食材を買い調理している。利用者は、野菜の皮むきや盛り付け、テーブル拭き、後片付けなどを手伝っている。食事レクリエーション係の職員が2名おられ、5日、15日、25日に日頃聞き取っているリクエスト(カレー、お好み焼き、弁当など)に応えている。おやつレクリエーションもある。行事食では、1日はお赤飯、正月はおせち料理、ひな祭はちらし寿司、土用の丑は鰻など、また厨房では全国の郷土料理を作る企画もしている。誕生日は希望の献立で提供し、お祝いのケーキ作りも楽しんでいる。最近、2回に分かれて、久しぶりの回転寿司を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物の導入や、食べる時間の調整をして1日の水分、食事摂取量をチェックして適宜対応している。毎日の水分を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きの介助、口腔ケア後の口内の確認を行っている。定期の歯科訪問でアドバイスをもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレの使用を中心に行うようにしている。(日中と夜間でオムツ類を分けている)又排泄パターンをスタッフ間で共有し、利用者の体調を確認しながら行っている。	職員は排泄記録により、個々の排泄パターンを共有している。自立の方もおられるが、声かけや誘導をおこなっている。日中はトイレでの排泄を中心に支援しているが、トイレでの排泄ができない方もおられる。リハビリパンツやパット、紙おむつなど、使用方法是利用者個々に合わせて検討している。ポータブルトイレの利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせて下剤の調整を行ったり水分をしっかりとっていただけるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ要望に添えるように行っている。	入浴は週に2回、主に午前中におこなっているが、体調を観察し希望も聞き柔軟に対応している。安全に無理のない入浴を心掛けている。毎回、お湯の入れ替えをしている。同性介助の希望者はいない。シャンプーなどは好みや、自分の皮膚に合うものの持参がある。菖蒲湯や柚子湯などの季節湯をおこない、入浴剤の使用もある。シャワー浴時には足浴や手浴もしている。入浴後は保湿剤などをつけている。入浴拒否の方には時間や日を変えるなどしているが、いつも翌日には入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせ臥床時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報提供書をファイルして把握に努めている。薬が変更になった場合は、確実に共有できるよう伝達方法を考え、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い・植物の水やりなどの役割活動、アルコールの提供や、居室で過ごすこと、散歩、1Fの利用者との交流での気分転換を行っている。コロナ禍楽しみ(レクや行事など)に制限が来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところ等を聞きとり計画し実行できるよう努めている。コロナ禍で散歩での対応にとどまっている。	コロナ禍では、中庭に出て花の世話をしたり、その周辺の散歩などをして、事業所内で2段昇降台や踏み台を使い筋力維持をしていたが、最近では下鴨神社に週3～4回、1対1や2対1で散歩に行き、15分～30分を過ごしている。ドライブでは賀茂川沿いの桜の花見や、利用者の希望で懐かしい場所に行っている。家族の面会時には家族と一緒に散歩に出かける方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をあずかり欲しい物があれば家族に相談し買い物同行等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時折電話でコミュニケーションを取っている。コロナ禍で家族への手紙を出す取り組み。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃を行い、整理整頓、消臭剤を使用し尿・便などによる施設特有の臭い防止に努めている。	リビングの壁には紫陽花の貼り絵があり、季節感がある。5月は風呂場用の暖簾を利用して、壁飾りのこいのぼりを作成し、利用者はとても喜ばれた。また、行事の写真がよく見える場所に多数展示されている。テーブルや椅子、テレビとともに、ソファも2台置かれ、ゆったり過ごすことができる場所となっている。清掃は、夜勤者がモップ掛けや拭き掃除をしているが、昼間もそのつど清潔を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の相性を理解し席順等を考慮して互いが過ごしやすいように工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族の写真を飾り居心地のよい空間を提供できるよう努めている。又ベッドや家具の配置など安全面に考慮している。	居室はエアコンとカーテンが設置されている。ベッドは8名がレンタルで1名は持参である。自宅で使っていたタンス、椅子とテーブル、ドレッサー、テレビ、マッサージチェア、クッションなどを持って来られ、自作品や習字なども飾られているが、家族写真も多い。掃除は朝か夕方に掃除機をかけ、拭き掃除をしている。表札には写真などを飾り、自分の部屋とわかるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活していただけるよう手すり等を設置。居室・トイレがわかるよう表示。		